慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	アメリカ合衆国における大学史研究と大学アーカイブズ
Sub Title	Archives and historical studies of higher education in the United States
Author	坂本, 辰朗(Sakamoto, Tatsuro)
Publisher	慶應義塾福澤研究センター
Publication year	2006
Jtitle	近代日本研究 (Bulletin of modern Japanese studies). No.23 (2006.) ,p.25- 54
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集・大学史研究と大学アーカイブズ
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-20060000-0025

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

特集・大学史研究と大学アーカイブズ

アメリカ合衆国における大学史研究と大学アーカイブズ

坂本辰朗

はじめに

が経過するが、この間を振り返るとただちに、「大学アーカイブズにおける不易と流行」とでも名付けるべき 抜き書きのために、かたわらに置いてあるのは、もはや鉛筆と紙ではなくノートPCなのである。これは筆者 これは最初にアーカイブズを利用したときからいささかも変わってはいない。しかしながら、その文書からの 特徴をいくつか指摘することができる。埃にまみれ破けそうな古文書を、白手袋をはめた手で恐る恐るめくっ てゆくという作業を毎年何度も繰り返している筆者にとって、アーカイブズはまさに「(古)文書館」であり 歴史研究者の一人として、アメリカ合衆国における大学アーカイブズを利用し始めてからかれこれ四半世紀

だけがそうであるというだけでなく、アメリカ合衆国における大学アーカイブズでは、ラップトップ・コンピュー

は、もはや不易の領域に入り込んでしまったというわけである。否、実際に、デジタル技術は、ノートテイキ タを持ち込んでいない閲覧者の方が珍しくなってしまった。筆者がアーカイブズを利用し始めた頃の「流行」

ングの場だけではなく、歴史研究の方法と従来のアーカイブズという概念そのものを一変させてしまった-

少なくとも、その可能性をもはや誰人も否定できない――のである。

本稿は、近年のアメリカ合衆国における大学史研究の方法の大きな変貌と、それに呼応するかのような大学

本稿は以下の順序で章立てがなされている。

まず本稿前半では、アメリカ合衆国における大学アーカイブズの成立と発展を簡単に辿ってみる。ただし、

アーカイブズの近年の顕著な動向を、一大学史研究者の立場から瞥見しようという試みである。このために、

なぜ、大学アーカイブズが成立するようになったのかは、アメリカ合衆国大学史そのものの流れを頭に置いて

おかないとよく理解できないため、これについても最低限の解説を試みる。

げる。特に、二一世紀に入ってからすさまじい勢いで進んでいる、デジタル技術の応用による革命とでも呼ぶ 次に後半では、ここ二〇年間ほどの期間で起こった、大学アーカイブズをめぐる諸問題のいくつかを取りあ

べき状況について、大学史研究におよぼすその可能性と問題点について言及したい。

アメリカ合衆国大学史のダイアグラム

一七世紀の半ばに始まるアメリカ合衆国大学史を略図で表すと、ほぼ、以下のような形に描くことができる

であろう。

Ι 植民地カレッジの時代(一六三六―一七七六年)

あり、これらの九私立大学はそれぞれの州の旗艦大学として、州からの全面的な援助を受けていた。 少なくとも一九世紀初めまでは、現在の私たちが考えるような、大学における公―私の区別はきわめて薄弱で

一六三六年創立のハーバードをはじめとして、これらの大学は各教会が創った宗派大学であった。ただし、

カレッジ・教会・政府との密接な関係

イエール ウィリアム・アンド・メアリ ハーバード 一六三六年 一六九三年 七〇一年

七五五年 七五四年

ペンシルバニア

ブラウン

プリンストン

七四六年

コロンビア

七六六年 七六四年

一七六九年

カリキュラム

ダートマス ラトガーズ

Ε

D С В

教員

学生

大学管理運営

Π 「共和国の教育」の興隆と終焉 (一七七六―一八一九年)

アメリカ独立革命の成功とともに、大学はいったんは旧体制の牙城とも見られたものの、やがて共和国建設

のための重要な拠点と見なされるようになった。啓蒙主義と科学への浸透は、各大学によって大きく異なった。

「共和国の教育」への志向

合衆国立大学の構想とその挫折

В

C 啓蒙主義と科学

D 最初の州立大学の成立――バージニア大学(一八一九年)

Е ダートマス・カレッジ判決 (一八一九年)

アンテベラム期の大学――新たな知への模索とバックラッシュ(一八二〇―一八六一年)

意識による弱小カレッジが乱立し、第二の宗教的大覚醒の反動としての啓蒙思潮の後退、他方、カレッジの中 歴史家ホフスタッターによれば「大いなる後退 (great regression)」の始まりの時代: ――宗派間のライバル

ダンなどのカレッジ、ジョージア、サウス・カロライナなどの州立カレッジの開校。ハーバード、イェール、 では学生の組織的暴動が始まった時代――でもあるが、いくつかの注目すべき動向。 ――トランスヴェニア、ボー

ブラウンなどの既存のカレッジの強化-――も確認できる。

旧来のカレッジの増殖と「大いなる後退」

В 学生暴動と「親代わり論」の終焉――ティクナー(ハーバード)、ノット(ユニオン)らの改革への

始動

- C イェール・レポート (一八二八年)
- D 知の構造化
- Ⅳ アメリカ的高等教育の興隆(一八六二―一八九〇年)

旧来の大学のヨーロッパ・モデルを離脱し、アメリカ的高等教育のシステムが確立されてゆく時代。 A モリル法とランド・グラント・カレッジ(Morrill Act, 1862; Morrill-McComas Act, 1890)と州立大

学

南北戦争の影響-

新世代大学人の登場

E 女性の高等教育

D C B

ドイツ大学モデルの影響――ジョンズ・ホプキンズ大学(一八七六年)カリキュラム改革――科目選択制の定着と拡大

F アフリカ系アメリカ人の高等教育

- V 拡大と標準化 (一八九一—一九二〇年)
- 第一次大戦までのアメリカ高等教育の量的拡大期。
- В Α 短期高等教育 量的発展 -多様な学生の登場 -コミュニティ・ジュニア・カレッジの成立と発展

С

いくつものカリキュラム改革

- D アメリカ的高等教育の完成
- Ε 大学と企業・国家 ――研究エートスの変容
- F アカデミック・フリーダムをめぐる問題
- VI ユニバーサル高等教育への移行 (一九二一—一九八〇年)

国が世界の高等教育の中心地(センター・オブ・エクセレンス、COE)としての地位を確立した時代。

高等教育における公正(Equity)と優秀性(Excellence)の双方を実現したシステムとして、アメリカ合衆

戦争と大学

С

В

D

大学紛争

Ē

学生数の減少とその影響

リベラル・アーツへの挑戦――「グレートブックス」から「一般教育」まで

マス高等教育からユニバーサル高等教育へ――G・I・ビルから高等教育マスタープランへ

多文化主義とインターネットがもたらした知の構造変容(一九八〇年-

В エクセレンス運動 VΠ

Α

学生消費者主義の浸透

С インターネットの衝撃 文化多元主義と多文化主義 ―eラーニングからヴァーチャル大学へ

D

と、時代によって以下のようないくつかの大学群を措定できるであろう。 ここでは、このダイアグラムを詳細に解説している紙幅はないが、アメリカ合衆国大学史を大きく俯瞰する

①植民地時代に成立した九つの私立宗派カレッジ。

ジが設立されることになる。 スコンシン大学(一八四九年)などが――成立する。さらにこの時代には、多くの旧来型の小規模宗派カレッ は結局、挫折し、公立大学としての州立大学が――最初の州立大学としてのバージニア大学 (一八一九年)、 さらにはミシガン大学(一八一七年→ミシガンが州として合衆国に編入された一八三七年に州立大学に)、ウィ ように、 ②合衆国成立以降、アンテベラム期(南北戦争以前の時代)に成立した大学。右のダイアグラムでも分かる この時期には国立大学の構想が提起されたものの(最初の提案者は初代大統領のワシントン)、これ

たモリル法に起源をもつ諸大学あるいは同法の援助を受けた大学。モリル法は、 州立大学 たため、きわめて特色のある「アメリカ的な」大学が誕生することになった。日本でよく知られている多くの ツ諸科目に加え、「農業・機械学などの実用的な諸科目」を教えることが、土地払い下げの条件として課され い下げ、州はそれを基金として大学を設立することができるようにする立法であった。通常のリベラル・アー ③一八六二年、連邦議会(ただし、南北戦争中であったので、南部諸州は除かれている)によって策定され -例えば、 カリフォルニア大学、アリゾナ大学、イリノイ大学など---連邦所有の国有地を各州に払 ーがこのグループに入る。

④南北戦争前後から一九世紀末の間に創設された諸大学。右③の諸大学もそうであったが、この時代には、

-は、その草創期の基盤づくりが可能になった。

「実用的な諸科目」を教える私立大学も同法による援助を利用できたため、いくつかの有力な私学

マサチューセッツ工科大学、コーネル大学など―

もはやヨーロッパの大学とははっきりと異なる「アメリカ的高等教育」の構成要素となる数多くの大学が設立

される。このグループには

(一八六九年)、ジョンズ・ホプキンズ (一八七六年)、スタンフォード (一八八三年)、クラーク (一八

(a) ハーバードなどの東部諸大学とはいろいろな意味で差別化をはかった「新構想大学」……ボストン

八七年)、シカゴ(一八九一年)などの私立総合大学。このうち、ジョンズ・ホプキンズは、ドイツ大

学理念に基づき大学院課程を持ったアメリカ最初の大学院大学として、大学における研究機能の重視を

打ち出し、後の大学院教育のモデルとなった。

- (b) アフリカ系アメリカ人のための大学……リンカン(一八五四年)、フィスク(一八六五年)、ハワード (一八六七年)、モアハウス (一八六七年)、タスキーギ (一八八一年) など。
- \widehat{c} リンマー(一八八五年)、バーナード(一八八九年)、ラドクリフ(一八九四年)など。 カレッジに昇格)、ヴァッサー (一八六五年)、ウェルズレイ (一八七五年)、スミス (一八七五年)、ブ 女性のための大学……マウント・ホリヨーク(一八三七年、女子セミナリーとして成立→一八八八年、
- らは、それまでに高等教育の機会を奪われていた人々に積極的に大学の門戸を開放するものであった。 ⑤世紀転換期から二〇世紀初頭、アメリカ合衆国史における最初の高等教育拡張期に成立した諸大学。
- (a) 二年制の短期高等教育であるコミュニティ・ジュニア・カレッジ
- (b) カトリック系の大学

ニ アメリカ的大学アーカイブズの成立

度から検討すると、いくつかの興味深い事実が指摘しうる。 以上、 瞥見したアメリカ合衆国大学史を、 個別大学史の編纂とその出版を大学アーカイブズの成立という角

(1) 『祝典大学史』の時代

九世紀中に年史を出版している。しかしながら、これらの個別大学史は、そのほとんどが、『祝典大学史』(1) イア・クインシーは当時のハーバードの学長であったが、彼は基本的に政治家(連邦議会議員 者を除いては、ほとんど読むに値しない、学問的評価に耐えられない〝歴史〞のことである。 たく切り離され(あるいは、〝祝典大学史〟の方が、通常の歴史研究と叙述を無視している)、当該大学の関係 大学史』とは、当該の大学の存在を正当化するための『歴史』であり、 (「○○大学創立××周年記念祝典」に間に合わせるための〝歴史〞)の性格が濃い。ここで筆者が言う〝祝典 例えば、ハーバードの創立二百周年を記念して出版された、ハーバード大学史を例にとれば、 まず、最古の植民地大学に属する九大学についてみれば、ペンシルバニア、ラトガーズの両大学を除き、一 通常の歴史研究と歴史叙述からはまっ 著者のジョ であり、 歴史

同名の息子

ハーバードの

立からアメリカ独立革命までを扱った通史の著者ベンジャミン・パース(一七七八―一八三一年、 学のトレーニングを受けたわけではなかった。さらにこの二百年史は、これ以前に出版され、

(一八○九─一八八○年)は数学者・天文学者・ハーバード大学教授。そのまた息子がプラグマティズム哲学

所蔵のマニュスクリプトや書籍を使用」したと述べられている。しかしながら、すぐ後に見るように、ここで(4) Ø た。また、 出てくるハーバード・カレッジ・アーカイブズとは、実際には大学の正式なセクションやプログラムではなかっ セッツ歴史協会(Massachusetts Historical Society)およびアメリカ古書学会(American Antiquarian Society) ンシーによる二百年史は確かに、「(ハーバード)カレッジのアーカアーカイブズ、州のアーカイブズ、マサチュー スも元々は貿易商であり、後にハーバード・カレッジの図書館員として年史編纂に従事したのであった。クイ シ創始者チャールズ・サンダース・パース)の業績および彼が収集した史料に大きく依拠していた。そのパー(3) マサチューセッツ歴史協会はアメリカにおける最古のアーカイブズと言われているが、

れる。5 ろそれらは、好古趣味的・図書館的・系図調べ的な観点から行われた」と指摘されている。(6) 在の大部分の大学アーカイブズが果たしている複数のサービスの役割への認識から行われたのではなく、 ド大学では、一九三八年に大学の正規のアーカイブズ・プログラムを持つに至るが、大学創立からこの時点ま 長室に附属する形で、アーカイブズ的なスペースとその仕事を行うスタッフを抱えていた。 カの歴史の古い大学の多くが、正規のアーカイブズを持つ以前から、多くは図書館の中に、 むろん、ものごとには正規の形態を準える以前のインフォーマルな時期というものがあるのであり、 約一万箱になるハーバードの関係文書と約二万冊になるハーバード大学関係出版物を蓄積していたとさ しかしながら、これらの初期の個別機関の歴史文書蓄積への試みの多くは、「個別大学史の重要性と現 例えば、ハーバー 場合によっては学

法という面でも、史料という面でも、

未だ、史料の収集や保存という点で組織性と一貫性を有しているわけではなかった。要するに、

歴史的研究方

未だ黎明期の時代に書かれたものであったのである。

(2) アメリカ歴史学会の成立と大学アーカイブズ

がアマチュアの仕事からプロフェッショナルの仕事へと転換していった時代に、アーキビストたちも、この学 の結成(一八八四年)の時代に始まるとされる。つまり、アメリカ合衆国において歴史研究、 は一九三五年であり、アメリカの国立図書館である議会図書館(Library of Congress)の設立(一九〇一年) 全米アーキビスト協会(以下、SAAと略記する)を結成する。ちなみに、ワシントンの国立公文書館の設立 大会を開くようになるが、これらのアーキビストたちは、ついに一九三六年に、歴史家の傘の元から離脱して、 会に参集することになったのである。世紀の替わり目までにAHA所属のアーキビストたちも自分たちの年次 アメリカにおけるアーカイブズ設立への関心は、アメリカ歴史学会(American Historical Association, AHA) 歴史編纂と叙述

かれたのは、ようやく一九四九年になってのことであった。 関係が逆転している。 さらにSAAの一部会として大学アーカイブズ委員会(現在はSAA大学アーカイブズ・セクション) が置

に大幅に遅れてつくられている。この点、アーカイブズが図書館の先駆的な形態であったヨーロッパとはその

U) このSAAの一部会としての大学アーカイブズ委員会の創立メンバ . は歴史コレクション)の代表者であった(カッコ内は大学創立年)。 しは、 以下の大学のアーカイブズ

(ある

オクラホマ大学(一八九〇年)バージニア大学(一八九〇年)

ハーバード大学(一六三六年)

フィスク大学 (一八六五年)

年前にすませ、ミシガン大学にいたってはその百年史の刊行はわずか一年前のことであった。(⑵ 四〇年から起算して二百年――を出版したばかりであった。同じくオクラホマ大学はその五十年史の刊行を七(印) 六年、歴史学の泰斗であるサミュエル・エリオット・モリソンによる今回は三百年史を刊行していた。百年史(9) 員会の結成は時宜を得たものであったのである。 カイブズの設立――がどれほど必要なのかを痛切に感じていたわけである。この意味で、大学アーカイブズ委 正確に言えば、それまでの「好古趣味的・図書館的・系図調べ的」な文書貯蔵庫ではない、近代的な大学アー を刊行し損なったペンシルバニア大学は、その二百年史――大学としての成立以前の中等学校の創設年の一七 ら二二年にかけて、全五巻におよぶバージニア大学百年史を刊行していた。同様に、ハーバードでは、一九三(8) た。すなわち、大学アーカイブズ委員会に集った人々は、個別大学史編纂にとって大学アーカイブズの設立 をめざし、より学問的な検証に耐えうる大学史を志向していたという点では、互いに共通するものをもってい これらの大学が創り出した年史は、一九世紀的な「好古趣味的・図書館的・系図調べ的な観点」からの離脱 この顔ぶれは、個別大学史編纂という観点から見ると、きわめて興味深い。バージニア大学は一九二〇年か

(3) アメリカ的大学アーカイブズの成立

なものに感じられるようになったのである。

てから確立されたとされている。この理由はおよそ三つ考えられる。(ヨ) 大学アーカイブズに関する理論および専門職としての大学アーキビスト職は、ようやく一九七〇年代になっ

であった。 人々の近代的なアーカイブズ理論と実践の蓄積は、 AAを結成したアーキビストたちは多くが州政府・連邦政府のアーカイブズに属する人々であった。これらの その第一は、上述のように、アメリカにおけるアーキビスト職一般の社会的認知が遅かったからである。 その後の大学アーカイブズの発展に寄与するところが絶大 S

時に、 界最大の高等教育システムを擁するようにあったのである。このことは、一方では、急速な発展を経験した個 の大学にとって、変化へのよりよき対応という点で、アーカイブズの一機能を必要とするようになったのと同 なわち、質という面では、アメリカ合衆国は世界の高等教育の中心地としての地位を確立した。量的には、 第二に、第二次大戦後のアメリカの高等教育が、その質・量ともに、 個々の大学および大学の歴史についての情報が、かつてないほど多くの一般の人々にとって、より身近 飛躍的な発展を遂げたことである。 世 す

めに、その大学史編纂への機運が高まり、アーカイブズが必要となったことが挙げられる。 いわゆるアメリカ的高等教育の時代にその成立を見た多くの大学が創立百年等の節目を迎えるようになったた 第三に、すでにアメリカ合衆国大学史ダイアグラムで瞥見したように、一九世紀中葉から終りにかけての、

あいかわらず各地で、〝祝典大学史〟(4) 大学史研究の進展

の出版は続いていたものの、

学問としての歴史学の進展とアーカイブ

37

ズの成立は、それまでにない多くの優れた大学史研究を生み出すことになった。以下に、二〇世紀後半の時代

にあらわれた個別大学史研究の業績と、そこから見えてくるいくつかの趨勢について見てゆきたい。

①一般歴史家の個別大学史への着月

の研究者ではない、一般の歴史家が個別大学史に関心を示し、結果として優れた作品を残すという例をいくつ やなくなったわけであるが、それでは、個別大学史は誰によって書かれるようになったのか。いわゆる大学史 大学史研究、とりわけ、個別大学史の編纂は、その大学の関係者であれば「誰にでもできる」仕事ではもは

か指摘することができる。

ル・カーティ(Merle E. Curti, 1897-1996)らが書いたウィスコンシン大学の通史は、その後の個別大学史編 例えば、アメリカ思想史・社会史の開拓者であり、多くの優れた歴史家を育てた、ウィスコンシン大学のマー

批判的な分析をおこなっていること、第二に、大学史とそれを取り巻く社会史や政治史をきちんと押さえてい の大学アーカイブズは依然として発展途上にあった――をおこなった上で、たんなる史実の羅列に終わらずに、(16) 学のみならず、各地のアーカイブズの調査を、著者たちおよび大学院生がおこなっている。ただし、この時代 文化的文脈の中に位置づけることで、個別大学史に新たなスタンダードを設定した」と評価する――ものであっ 纂の一つのモデルとなる――例えば、キャッスルは、このウィスコンシン大学の通史を「大学史を社会経済的 た。この通史は、第一に、きわめて深く広範囲にわたる史料の特定――当然のことながら、ウィスコンシン大 -ある意味では、本書はカーティが名著 Growth of American Thought(1943)で展開したテーマの大学史

ること、最後に、何よりも、厳格な歴史的トレーニングを受けたプロフェッショナル歴史家の手による本格的 版とも言える――こと、第三に、学長や教員、行政官だけでなく、例えば学生の課外活動にまで目を配ってい ③創立者不在の個別大学中

な歴史書として、安心して読むことができるものであった。

その博士論文として書かれた同大学の創設期の歴史は、アメリカ歴史協会の一九五九年度のタイラー賞を得て げることができる。なお、ホーキンズによるジョンズ・ホプキンズ大学史は、彼自身が同大学の出身者であり、(ミン) であろう。同書は、今もなお、ジョンズ・ホプキンズ大学史を語る上で不可欠の業績である。 出版されることになり、結果として、優れた大学史家を生み出すことになった。これは幸運な一致というべき この系統に属する個別大学史として、ストアによるシカゴ大学史、ペッカムによるミシガン大学史などを挙(9)

②学外の歴史家が書いた個別大学史

きではない」とまで激賞している。(22)を巧みに取り入れており、先のカー 大学教授であり、特に南北戦争時代が専門の優れた社会史家として知られていた。この百年史も社会史の手法 ルによるマウント・ホリヨーク大学史を挙げることができよう。コールは、執筆当時はウエスタン・リザーヴ 合、しかるべき学外の歴史家に執筆を依頼することも考えられるわけである。この成功例の一つとして、コー 終わってしまい、結果として、歴史学の上からはまったく顧みられない〝歴史〟が生み出される恐れがある場 当該の大学の関係者 -卒業生あるいは教員や職員-先のカーティが「合衆国の女性史、教育史、社会史のどのような研究者も無視すべ -が個別大学史を書くとどうしても無批判的な賞賛に

リカ合衆国の個別大学史を見ると、その大多数が創立者不在の個別大学史-ところで、日本の個別大学史の場合、 創立者研究はその重要な要素とならざるをえないわけであるが、アメ -少なくとも、その扱いは重くな

-であることに気づかされる。

う。逆に、創立者研究が個別大学史の大きな部分を占める大学は、いわばアメリカ合衆国大学史のメインスト が成立していた――ということ、そしてそこには、Corporation 原理が貫徹していたということが挙げられよ この傾向に関係していると思われるが、何よりも、アメリカ合衆国大学史においては、ヨーロッパ大学史がそ(33) うであったように、「国家が大学を創った」のではなく「大学が国家を創った」――近代国家の成立以前に大学 アメリカ史の基本的な史観や研究スタイル――歴史叙述における Great Man Theory の忌避 ――例えば、カトリック系の大学、女性の大学、アフリカ系アメリカ人 ーもむろん、

実である。これは、すでに本論文第一節のダイアグラムで見たように、ヨーロッパとは明らかに異なるアメリ カ的な大学が成立したのが一九世紀の最後の三○年から二○世紀初めの二○年までということと関係する。ハー バード大学史の中でのチャールズ・W・エリオットの位置は、まさにこのような中興の祖というべきものであっ もう一つの理由は、アメリカ合衆国大学史にとっては、創立者よりも中興の祖の方が重要であったという事

の大学など――なのである。

リームからは疎外されてしまった大学

川 大学史研究とデジタル革命

1 大学史研究におけるデジタル革命

たことがあった。 今から十数年前に、筆者は、アメリカ合衆国の大学アーカイブズについての論考を以下のように締めくくっ ないであり、このような動向がさらに加速されることを望みたい。 大学アーカイブズの普及には、アーカイブズを利用しやすくする条件作りの問題をも見落とすことができ の大学アーカイブズに行く前にどこに何があるのかをかなりの程度正確に知ることができるわけである。 スクリプト・データベースのネットワーク(OCLC と RLIN)が構築されつつある。これらによって、そ う点で難があったが、現在は、より完璧なカタログ作りを迅速に行うことを目的として、全米的なマニュ レクション・カタログについても主要な大学はほぼ作成されている。これらのカタログはタイムラグとい Part IV—College and University Archives.の作成にいち早く着手したわけである。さらに、 Union Catalog of Manuscript Collections. National Inventory of Documentary Sources in the United States アメリカではアーキビストが専門職として認知され全国的な職能団体を結成したのであるが、それと同 全米的なマニュスクリプト・コレクション・カタログ――議会図書館が作成している National 個別大学のコ

のものを一変させてしまったと言ってよい。以下にこのことを具体的に示してみたい。 とって今や遠い過去の記憶となってしまった。いやそれどころではなく、デジタル革命は、 まった。それとともに、冊子体のマニュスクリプト・コレクション・カタログを最後にめくったのも、 全米的なマニュスクリプト・データベースのネットワークの構築という課題はもはや過去のものとなってし 歴史研究の方法そ

なっているはずである。例えば、ある大学において特定の学問領域の教育と研究が、いつ、どのように導入さ 歴史研究者はいきなり大学アーカイブズを訪れるのではなく、そこに至るまで多くの予備調査をおこ

①書誌データベース

ないはずである。この場合、昔懐かしい図書カードや目録をめくっている研究者はもはやいないであろう。こ れていったのかを調べている研究者がいたとすれば、まずは同じ研究テーマの先行研究を確認しなければなら

れに取って代わったのが書誌データベースである。

が代表であろう。一九五五年以来の単行本・学術論文などを収録したこのデータベースは、アメリカ史のあら アメリカ合衆国の歴史関係データベースの代表は、ABC-CLIO 社が作成している America: History & Life

ゆる側面を扱った書誌データベースである。単行本については、かつての冊子体の Books in Printもまた、千

百万件以上を収録したウエッブ・ベースの Global Books In Printに取って代わった。こちらの方が当然、

収録 件一件の収録情報がはるかに豊富になり――通常の書誌情報以外に、出版社のURLから当該図書の梗概まで 検索のインターフェースも使いやすい。

②歴史的人名データベース

なのが、Marquis Who's Who on the Webであり、一六○七年から現在までの現存の人物・物故者を含め千二 人名辞典についても、 昔から定番の Who's Who もすでにデジタル化された。歴史研究者にとって特に便利

ルドー 百万人のデータが収録されている。さらに、アメリカ合衆国の定評ある二つの人名事典 American Biography 45 National American Biography ·例えば、生年没年・職業・性別・出身地や出身大学など――をクロス検索できることがこれらのデー ―もすでにデジタル化されており、マルチ・フィー

③全文データベースの登場

タベースの最大の強みであろう。

書誌情報を確認してから、 当該の現物のコピーを入手するというこれまでの方法もまた、今や各種全文デー

タベ である。 Academic Research Library ースの登場によって、 特に最後の JSTOR は文字どおり「歴史的論文」の宝庫であろう。 さらに学術論文のアーカイブズである JSTOR などが代表的な全文データベース 大きく変わろうとしている。 論文について言えば、 EBSCO や ProQuest 社

されたものは約六〇万点 ドできる からの発展の究極とでもいうべきものであり、 ある ProQuest 特に指摘しておきたいのが、アメリカ合衆国およびカナダで学位授与された博士論文の全文データベ 同社は、 社の Dissertations & Theses Full Text である。これもまた、かつての冊子体の学位論文抄録誌 新しい学位論文から徐々にデジタル化しており、 **一のである。** 学位論文そのもののコピーがPDFファイルで即座にダウンロ 現在のところ、PDFファイルで収録 1 ・スで

ポスト』などなど― してきている。 た新聞は、 していた一人であるが、この作業はもはやまったく時代遅れとなってしまった。 べて必要な記事を拾い出し、次にマイクロフィルム版の『ニューヨーク・タイムズ』から当該記事をプリント の代表的な新聞 のように評価されていたのかを見る場合に得がたい手がかりをあたえてくれるものであるが、 その全文を対象に、 社はかつて同社がマイクロフィルム化した膨大な新聞 例えば、歴史研究者にとって、 ――『ニューヨーク・タイムズ』 『シカゴ・トリビューン』 『ボストン・グローブ』 『ワシントン -はほぼすべてデジタル化された。 自由に検索をかけられるからである。これが可能なのは、 過去の新聞にあらわれた情報は、 筆者もかつて、 ・ジャーナル 冊子体の New York Times Index を調 なぜならば、 例えばある大学人が当時、 · 雑 誌の情報をもデジタル化 デジタル化された新 アメリカ合衆国 デジタル化され

検索システムのバッ

ドではこの画像を対象にOCR

聞そのものはマイクロフィルムからスキャナで読み込んだ画像なのであるが、

(光学式文字認識)

処理をおこなって文字化している-

一この点が、

漢字と違っ クグラウン

て形が単純なアルファベットの強みで、ほぼ一〇〇%、正確に認識できる— -からである。こうして、任意の

語句から検索をおこない、即座に当該記事をプリントアウトできるわけである。

スであり、これは、次に詳しく述べるように、 一六九〇年から一九二二年までの期間、アメリカ五〇州で発行された千を越える新聞の全文データベー 新聞記事データベースとしては、もう一つ、Readex 社の America's Historical Newspapers. があり、こ 同社のより巨大なアメリカ史の第一次史料を集積した Archive

④一次史料集成

of Americana の一部をなしている。

七四〇―一九〇〇年の間に 発行された一般雑誌中心とした全文データベースで、特に一九世紀の収録が優れ これなしには一歩も進めないと言ってよい。同じく、ProQuest 社の American Periodicals Series Online は、一 や複写に制限が加えられている――一次史料を、細大漏らさず正確に特定し容易に全文を閲覧、ダウンロード ている。いずれも、かつては大規模大学図書館の保存書庫の中に所蔵されていた-Serial Set, 1817-1980)のイメージ・データへのアクセスが可能なデータベースである。あらゆる分野を網羅 アメリカ独立後、一九八〇年までの政府刊行物(American State Papers, 1789-1838 および U.S. Congressional しており、その巨大さのゆえに最初は使いにくいが、特に一七―一八世紀のアメリカ史研究は、大学史を含め、 よび Early American Imprints, Series II: Shaw-Shoemaker, 1801-1819)、上述の初期アメリカ新聞集成、さらに べての書籍・パンフレット・ブロードサイド印刷物(Early American Imprints, Series I: Evans, 1639-1800 お Readex 社の Archive of Americana は、一七世紀から一九世紀にかけてアメリカで発行された、現存するす 場合によっては持ち出し

できるわけである。

そして最後に、アーカイブズ情報の入手という点でも、すでに引用した National Union Catalog of

⑤アーカイブズ情報

作している ArchiveGrid は、 Manuscript Collections,などの冊子体目録は完全に過去のものになった。RLG(Research Libraries Group) 同グループに加盟している世界の数千の図書館、アーカイブズの一〇〇万件にも が制

きる。

五八一箇所の図書館、

アーカイブズが所有する一六万件のコレクションを対象に、より詳細な検索式が設定で

アメリカ合衆国内に限ると、

ArchivesUSA が全米五

およぶインベントリー情報を検索できるシステムである。

(2) 情報格差の拡大

クリプトを閲覧する前の段階で、研究者によって圧倒的な情報格差ができてしまい、この格差はますます拡大 ても尽きることがないであろう。しかし、 以上のような、大学史研究におけるデジタル革命の恩恵をいちいち書いていけば、恐らく本稿の全紙幅を使っ 結果として、大学史研究には、 大学アーカイブズを訪れてマニュス

の一途をたどっていると言ってよい。

個人がどのような機関に属するかで、アクセスできる情報に圧倒的な差が 全に Open to Public(どのような人にも公開)なのであるが、そこを訪れるまでの基礎調査の段階では、 では絶対に購読できないきわめて高額なものだからである。つまり、大学アーカイブズそのものは基本的に完 -どの機関にも属さず個人で仕事

それはどのようなことであろうか。以上、瞥見した各種デジタル・データベースはすべて有償であり、

個人

をしている independent scholar と呼ばれる人がもっとも不利な立場にあるとして、大学・研究機関所属であっ

45

ても、その図書館ないし情報センターが、どれだけ多数のデータベースを購読しているかが重要

たどっていると言ってよいのである。

消するというのは全くの幻想にすぎない。事実は、インターネットによって情報格差はますます拡大の一途を すでに筆者がことあるごとに力説しているように、インターネットによって中心―周辺という情報格差が解

ズこそがデジタル革命の最先端であるという逆説を引き受けられるところとそうでないところに、はっきりと た、ほんの一〇年前、誰が予想したであろうテクノロジーの挑戦に直面しているのである」と指摘しているが、(26) 従来的な感覚から言えばデジタル・テクノロジーからはもっとも遠いところにいると思われるそのアーカイブ 化記録史料記述)はほとんど概念化されておらず、デジタル・アセット管理システムなどは創られていなかっ キビストやマニュスクリプト・キュレーターは、WWWが流行中で、EAD(Encoded Archival Description符号 課題を論じた中で、「今日、アーカイブズという仕事場は、真の意味での、すばらしい新世界なのである。アー の二極化を起こしているという事実である。ある論者は、アメリカ合衆国におけるアーカイブズ教育の今日的 なわち、肝心のアーカイブズの側が、このようなデジタル技術を巧みに応用できるところとそうでないところ するという趨勢もないことはない。しかしながら、ここでもまた、別の種類の格差が生じてしまっている。す なるほど確かに、大学やアーカイブズが、その所蔵する図書やマニュスクリプトなどをネット上に無償公開

分かれてしまっているわけである。

五 特別コレクションと大学アーカイブズ

危うくなること――から言えば当然かもしれない。この結果、大学アーカイブズは、組織的には、 等教育につねに存在する〝市場原理〟――つねにより多くの〝顧客〟が来てくれないと、大学内でその存続が トン大学の例がこの間の事情をよく物語ってくれよう。 レクションと一緒になって――というよりもむしろその一部として――存在しているところが多くなる。 しかしながら、 カレッジ(二年制の地域社会短期大学)ですら、アーカイブズを持っている大学も決してめずらしくはない(27 アーカイブズはアメリカ合衆国の高等教育界のなかではもはやすっかり根付いた存在であり、 アーカイブズだけが独立して存在することはやはり難しいようで、これは、アメリカ合衆国高 コミュニティ 他の特別コ ボス

整えてゆくことになる。アメリカ合衆国史上、 スクールを構成することになる。一八六九年に大学の設立認可状を取得し、以降、数年で大学としての陣容を た後、一八六七年、ボストンへと再度移転、ボストン神学セミナリーとなった。これがボストン大学の最初 ントに設立されたメソディスト神学校に端を発する。同神学校は、一八四七年、ニュー・ハンプシャーに移っ ボストン大学の開学は、 慶應義塾とほぼ同じく一八六九年である。(28) 最初に、女性に対して学士課程・大学院の全課程を開放した共 同大学はもともと、一八三九年にバ ノーモ

学制の大学であり、また早くから、アフリカ研究にも着手した大学でもあり、

る(日本人最初の卒業生は、後の中央大学の創立メンバーの一人であり学長も務めた菊池武夫であった)。

一九六三年、同大学に特別コレクション部門が設立されたことにともなっ

ボストン大学のアーカイブズは、

日本からの留学生も多く学んで

積された大学文書は、正規のアーカイブズを持つ以前から、学内の別の部署に置かれ、そのためのスタッフを て、その一部として発足している。ただし、本論第三節ですでに見たように、実際には、一九世紀中葉以来蓄

抱えていた。

特別コレクションの初代のキュレーターはハワード・ゴットリーブ(一九二九―二〇〇五年)であり、

ボストン大学はひとえに彼の手腕によって、その膨大な二〇世紀アメリカ・コレクションを創り上げたといっ

このようにして集められた二千人以上の二〇世紀著名人コレクションの中には、アイザック・アシモフ(一九 動の指導者に接触し、その九万三千点にもおよぶその所蔵文書を母校に寄贈する約束を取り付けたのである。(②) で博士号を取得)であり、同大学としては、この著名なアフリカ系アメリカ人指導者の文書を所蔵することに ジュニア(一九二九―一九六八年)文書であろう。キング牧師はボストン大学の卒業生(一九五五年、同大学 は、当然、強い関心を払ったわけである。ゴットリーブはキング牧師の存命中の一九六四年に、この公民権運 この大学の特別コレクションの中でもっとも著名で多く利用されているのが、マーチン・ルーサー・キング・

ド・ハルバースタム(一九三四年―)のように同大学とは無関係な人々の方がむしろ多い。

二〇―一九九二年)のようにボストン大学と直接関係を持った人々――アシモフはSF小説家として著名であ

るが、生化学者としてボストン大学の医学部教授でもあった――もいるが、著名なジャーナリストのデイヴィッ

学では彼の功績に報いるために、二○○三年、それまでの特別コレクションをハワード・ゴットリーブ・アー も所蔵されており、ゴットリーブが一代で創り上げたコレクションと言ってよかろう。このため、ボストン大 この他、同特別コレクションには、コーベルガーなどのインキュナビュラを含む一四万点にもおよぶ稀覯本

のみであるということのしわ寄せであろう。

キバル・リサーチ・センターとして組織改革をおこなっている。

ら完全に整理されていない Ь 展は認められ ズを利用しているが、 たわりには、それほど改善されたとは言い難い状況である。 数十人は仕事ができると思われる、 部屋の一 筆者の関心の対象である大学アーカイブズの方はどうであるかと言えば、 区画をガラス・ドアで間仕切りしたスペース) ようが、 最初に訪れたときは、 コレクションの整理・ -であるという印象を受けた。これは、 ゆったりとした閲覧室を持つようになったのであるから、 分類という面では、 図書館の最上階にあるこのアーカイブズは、 筆者は一九八九年からボストン大学のアーカイブ は一〇席もなく、 やや手抜き状態 現在のボストン大学史関係の専任は一人 きわめて小規模であった。 母体の組織が拡充改革され -初代学長のペ 閲覧室 (というより ヿ パ ある種 ーです

ば があると筆者は考えている。 通常の大学アーカイブズを訪れた際には、 な研究組織の一部になること自体は、 ,分野ではありえないということを実感させられることが多い。 可能か、 筆者は、 ・カイブズが大きな部局の小さな一セクションということになると、結局のところ、大学史研究は、 アメリカ合衆国大学史の中でも特に、 という論点を考察してゆくと、 すでに述べた、 一大学内における組織的な戦略という側面は別にしても、 それは、大学史が、 史料の探索に苦労することも多く、 個別大学史の ジェンダーと高等教育というテーマに興味を持ってい "祝典大学史』 化傾向 より大きな歴史的文脈の中で検討される機会が しかしながら、大学アーカイブズがより大き ましてや、 への歯止めはどのようにすれ 先述のように、 積極的な意味 、るが、 華々し

当該大学の関係者でもなけ

ボストン大学のある

は慶應

研究センターがまさにそうなのであるが、

当該大学の歴史を専門としない人々

増えるということが大きな力になりうるのではないかということである。

れば、 高等教育史の専門家でもない人々 -との接点が常にあるということは、つねにおのれの位置をより広

い歴史的文脈の中に見出すという思考法をとらざるをえないからである。

注

<u>1</u> た原史料が失われてしまった場合もある-原史料の所在を特定しているだけでなく、これらの年史が刊行された後で、さまざまな事情で、年史執筆に使用され 一九世紀中に刊行されたこれら九大学の個別大学史を以下に掲げる。これらの史料的価値は未だに否定できないが ―本文でも一部を指摘するように、通史編纂の方法や史観といった点では

多くの問題を抱えている。

Josiah Quincy. The History of Harvard University. (Cambridge: J. Owen, 1840)

College of William and Mary. The History of the College of William and Mary, From Its Foundation, 1693, to 1870.

(Baltimore, Printed By J. Murphy & Co., 1870).

Noyes, 1841) Ebenezer Baldwin. History of Yale College, From Its Foundation, A.D. 1700, to the Year 1838. (New Haven, B. and W

George Riddle Wallace. Princeton Sketches: The Story of Nassau Hall. (New York: G. P. Putnam's Sons, 1893)

Nathaniel Fish Moore. An Historical Sketch of Columbia College in the City New-York. (New-York, Columbia College

Company, 1867) Reuben Aldridge Guild. History of Brown University: With Illustrative Documents. (Providence, R.I.: Providence Press

Baxter Perry Smith. The History of Dartmouth College. (Boston, Houghton, Osgood And Company, 1878)

- 2 Josiah Quincy. The History of Harvard University. Cambridge: J. Owen, 1840
- 3 American Revolution. (Cambridge: Brown, Shattuck, And Company, 1833) Benjamin Peirce. A History of Harvard University: From Its Foundation, In The Year 1636, To the Period of the
- 4 Quincy. The History of Harvard University, p.x

5

Robert W. Lovett. "Clarence E. Walton and the Harvard University Archives," Harvard Librarian, Vol.15 No.4,

(December 1981), p.6

- 6 Press, 1992), p.7 William J. Maher. The Management of College and University Archives. (Chicago: SAA & New Jersey: Scarecrow
- (P) Nicholas C Burckel and J. Frank Cook. "A Profile of College and University Archives in the United States." Archivist, Vol.45 No.4, Fall 1982, pp.410-411
- (∞) Philip Alexander Bruce. History of the University of Virginia, 1819-1919. The Lengthened Shadow of One Man. (New York, The Macmillan company 1920-1922), 5 vols.
- 9 Samuel Eliot Morison. Three Centuries of Harvard. 1636-1936. (Cambridge, Mass.: Harvard University Press,
- <u>10</u> Press, 1940) Edward Potts Cheyney. History of the University of Pennsylvania, 1740-1940. (Philadelphia, University of Pennsylvania
- 11 Roy Gittinger. The University of Oklahoma, 1892-1942. (Norman, University of Oklahoma Press, 1942)
- 12 Kent Sagendorph. Michigan, the Story of the University. (New York, E. P. Dutton, 1948)
- 13 Maher. The Management of College and University Archives, pp.7-8.; Annabel Straus. "College and University
- <u>14</u> Archives: Three Decades of Development," College and University Archives, Vol.40 No.5, (September 1979), pp.432-439 Merle Curti and Vernon Carstensen. The University of Wisconsin: A history. (Madison: University of Wisconsin Press

- Scribner's Sons, 2001). Alfred L. Castle. "Merle Eugene Curti." The Scribner Encyclopedia of American Lives, Vol. 4, 1994-1996. (Charles
- 16 とりわけ大学関係記録は、これまで整理がなされていなかったと見受けられ、大きな空隙がいくつもある。ウィスコ University of Wisconsin: A History, 1848-1925 by Merle Curti; Vernon Carstensen." The American Historical Review ブズ』がもっと前に設立されていたら、より優れた歴史が描けたであろうに」。Solon J. Buck. "Review: The ンシン歴史協会が収集し保存し整理してきたマニュスクリプトその他の文章は貴重であるが、もしも『大学アーカイ この問題は、このカーティらの個別大学史の書評をしたバックが指摘している。「遺憾ながら、この史料の大部分」
- <u>17</u> 鶴見和子・鵜飼信成共訳、『アメリカ社会文化史』全三巻(東京:法政大学出版局、一九五四年)。 Merle E. Curti. The Growth of American Thought. (New York, London, Harper & Brothers, 1943). 龍口直太郎

Vol. 55, No. 4 (Jul., 1950), pp. 938-939.

- 18 Chicago Press, 1966) Richard J. Storr. Harper's University: The Beginnings; A History of the University of Chicago. (Chicago, University of
- 1967). なお同書は、一九九四年、大学創立一七五周年記念増補版として再刊されている。 Howard H. Peckham. The Making of the University of Michigan, 1817-1967. (Ann Arbor, MI.: University of Michigan.
- 20 Hugh Hawkins. Pioneer: A History of the Johns Hopkins University, 1874-1899. (Ithaca, NY: Cornell University Press,
- 21 Arthur C. Cole. A Hundred Years of Mount Holyoke College. The Evolution of an Educational Ideal. (Yale University
- 22 Hans L. Trefousse, "Arthur Charles Cole," Dictionary of American Biography, Supplement 10, 1995)

- 創立の功績を個人に帰すのはやや無理なのであるが――ジェファーソンについての研究はこの代表であろう。 「創立者ジェファーソン」研究としては、Alf Johnson Mapp. Thomas Jefferson: Passionate Pilgrim: the Presidency, the むろん例外はいくつもあり、例えば、バージニア大学を〝創立した〟――バージニア大学は州立大学であるから、
- Founding of the University, and the Private Battle. (Madison Books, 1991). が挙げられる。 この系譜に属する研究は文字どおり膨大にあるが、新たなモノグラフとして、Elizabeth Melia. "Science,
- Unpublished PhD Thesis, Johns Hopkins University 1995. がある。 Education: The Search for Cultural Unity at Harvard under Charles W. Eliot, A. Lawrence Lowell and James B. Conant."
- $\widehat{25}$ 26 九九年)、三七四頁。ただし、本原稿の執筆は一九九三年である。また、引用文の表現を若干、改めた。 Helen R. Tibbo. "So Much To Learn, So Little Time To Learn It: North American Archival Education Programs In 拙稿、「アメリカの大学アーカイヴズ」、寺崎昌男・別府昭郎・中野実 (編著)、『大学史をつくる』(東信堂、 — 九
- $\widehat{27}$ Dissertation, Florida State University, 1987. を参照。 Scope, and Nature of Archives in Two-Year Institutions of Higher Education in the Southern United States." The Information Age And The Role For Certificate Programs," Archival Science. DOI 10.1007/s10502-006-9031-5 アメリカ合衆国の短期大学における大学アーカイブズの諸問題については、Adele Louise Odelenberg.
- $\widehat{28}$ University, 1973). ないなど)が散見する。後者のキルゴアの著作はボストン大学創立一五○周年記念──一八三九年のメソディスト神 誤記や不正確な記述、 立百周年を記念してボストン大学より発刊されたものであるが、このカレッジ正史ともいうべき業績は、遺憾ながら、 University Press, 1991). が出されている。オウルトの著作は題名から推察できるように、ボストン大学の教養学部創 ボストン大学の通史は、Warren O. Ault, Boston University The College of Liberal Arts 1873-1973, ねょち、Kathleen Kilgore, Transformations: A History of Boston University (Boston: 杜撰な引用文献の挙げ方(彼が引用文の出典として挙げている文献には該当の引用文が存在し

学校の成立時から数えると一九八九年が一五〇年目になる――の大学全体の通史である。こちらは史料をよく消化し

た上にコンパクトにまとめられている。ただし、現在の個別大学史編纂のレベルから言えば〝祝典大学史〟の性格が

濃いのが残念である。 "Howard Gotlieb, 79, BU Curator of Archives for 42 Years," Boston Globe, (December 3, 2005), p.A13. ゃなみじ

キング牧師が暗殺された後、遺族からこの文書を返還するよう訴訟が起こされたが、一九九三年、ボストン大学が勝

<u>29</u>

訴した。